2024 年度 藍野大学 職業実践力育成プログラムに係る自己点検・評価
【認定看護管理者教育課程ファーストレベル・セカンドレベル】

評価項目	実施組織による自己点検・評価	自己点検に基づく 教育運営委員会の評価・検証
教育課程 （カリキュラム、 講義内容等）	認定看護管理者教育課程の講義計画は、日本看護協会の制度委員会が決めたカリキュラム基準に基づく内容で実施することとされており、ファーストレベル総時間数 105 時間、セカンドレベル総時間数 180 時間を実施した。 受講者へ講座内容の適切度についてアンケートを取ったところ、下記の通りの結果が出ており、セカンドレベルを適切と答えた比率は昨年度より増えたが、ファーストレベルを適切と答えた比率がやや減少した。講義内容に大きな変更点はないため、今後受講生の理解を深める方法を思案する必要があると思われる。 ・ファーストレベル 講義：適切 62%、やや難しい 36%、難しい 2% 演習：適切 62%、やや難しい 34%、難しい 4% 〈昨年度ファーストレベル結果〉 講義：適切 74%、やや難しい 24%、難しい 2% 演習：適切 76%、やや難しい 18%、難しい 6% ・セカンドレベル 講義：やや易しい 4%、適切 70%、やや難しい 26% 演習：適切 72%、やや難しい 21%、難しい 7% 〈昨年度セカンドレベル結果〉 講義：適切 70%、やや難しい 30% 演習：やや易しい 3%、適切 64%、やや難しい 21%、難しい 12%	教育課程は日本看護協会により適切な授業科目が設定されており、本講座での実施内容も適切に運営されていると判断できる。 今後はファーストレベルの講義・演習を、より多くの受講者が理解しやすく実施できるよう検討されたい。
教育成果	講義内容が今後の業務に役立つ内容かのアンケートの質問に、ファーストレベル・セカンドレベルの受講生 100%が役立つ・やや役立つと答えているため、知識・能力の向上を達成できたと考えられる。 また、自身の目標の達成度値については、10 点中セカンドレベル 7.6 点、ファーストレベル 7.9 点という結果が出ている。	認定看護管理者教育課程ファーストレベル・セカンドレベルに必要な能力を向上できた結果が出ており、教育効果があったと判断できる。

評価項目	実施組織による自己点検・評価	自己点検に基づく 教育運営委員会の評価・検証
支援体制	全講義日においてオフィスアワーを設け、教育課程の専任教員に学習相談が出来る体制を整えている。また、今年度より Slack を導入し、受講生への連絡や受講生同士のデータの共有等がスムーズに行えるよう努め、受講生の不安解消に役立てた。アンケートにおいても下記の通り満足度の高い結果が出ている。なお、感染症に罹患した場合の支援として、希望があれば遠隔で受講できる体制を用意し、受講者から感謝の声もあった。 〈専任教員や事務スタッフのサポート体制〉 非常に満足、満足と回答した人：ファーストレベル 93%、セカンドレベル 100% 〈Slack 活用の満足度〉 非常に満足、満足と回答した人：ファーストレベル 93%、セカンドレベル 97% ※面談の枠が少ないという意見が複数あったため、次年度より予備日や昼休憩時に 2 名対応できるよう面談可能枠を増やすこととする。	サポート体制や Slack の満足度が高く、感染症罹患における対応も柔軟に行われており、支援体制は適切であると判断できる。
施設設備	設備環境と図書館について満足度アンケートをとった結果、良い・どちらかというと良いと答えた比率は下記の通りであった。 ・ファーストレベル 　設備環境：空調設備 69%　音響・映像設備 82% 　図書館：蔵書の種類 94%　サービス・サポート 100% ・セカンドレベル 　設備環境：空調設備 93%　音響・映像設備 90% 　図書館：蔵書の種類 95%　サービス・サポート 100% ※照明が明るくてスクリーンが見えにくいという意見が複数あったため、次年度より照明の調整を行うこととする。 ※延長コードの貸出希望があったため、次年度より希望者に貸し出しを行う。	施設設備、図書館共に満足度は全体的に高いが、冬季の空調設備に懸念が残る。寒さへの対応方法を検討されたい。
広報活動	受講案内リーフレットを制作し、関西 2 府 3 県にある病院の看護部長と、今年度より大学近辺の訪問看護ステーションにも送付をした（約 1180 施設）。 また、近隣の病院を訪問し、看護部長や看護教育担当スタッフと面談を行い、直接講座の案内を行っている。	リーフレット送付や病院訪問など、広報活動は適切に行われていると判断できる。今後も定員充足に繋がるよう努められたい。